

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812461		
法人名	有限会社ふあみりい		
事業所名	グループホームふあみりい		
所在地	秋田県大仙市四ツ屋字上古道199-1		
自己評価作成日	平成29年7月26日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事や外出に力を入れ、季節感が味わえるような工夫をしています。食事も行事食を取り入れながら、時期の物を味わい、目でも舌でも季節を感じられる、楽しめる食事を心がけております。外出がなかなか困難な方も施設内の行事に参加しながら、1年を通じて季節を感じられるように努めております。スタッフの関係がよい→職場が楽しい→利用者様に笑顔でサービスが行える→利用者様が笑顔になれる！を目指し、1日1笑の理念のもとに、ともに暮らしともに笑う生活を心がけております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	2017年8月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中で、周りは田んぼに囲まれて施設の向かいには系列のショートステイがあり、また道路を挟み少し離れた場所には障害児の放課後児童保育の施設がある環境にあった。大半の利用者は住み慣れた環境に近い場所にての生活で近隣の方々の協力もあり地区になじんだ生活を送っている。働いている職員全員が笑顔を絶やさず、利用者に接している様子がとてもすてきでした。職員の表情、態度が利用者一人一人の表情をいきいきとし、穏やかな生活を送ることに繋がっていることが確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 <b>代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</b>	介護する私たち職員が率先した笑顔での対応を心がけ、仕事が楽しい、介護が楽しいという気持ちで働くことから始まると思う。楽しく仕事に来れること、小さなことでも隠し事をせず、大きな事故につながらないことを心がけている。	職員の目に触れるところに理念が貼付され、職員が理念を共有しており、常に楽しく働くことを、心がけ実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の散歩を心がけている。施設の祭りでは近辺の住民の方々を招待し、保育園児等に舞台上に立ってもらうなどしており、地区祭にも出向いている。地区祭の際には施設前に絵灯笼や手踊りの方々が披露してくれている。	放課後学童保育や保育所の子供たちとの交流や地域住民との交流、また地区の行事等への参加など地域の一員として常に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした <b>地域とのつながり</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に <b>伝え、地域貢献している</b>	認知症なんでも相談所ののぼりを掲げていることでアピールをしているが、実際地域貢献とまではいっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じ主に地域代表の方から近所の住民の声を聞くことができている。また、利用者の身体、精神状況、施設での暮らし方を話すことで向上することができている。	運営会議には医療、地域、行政、家族、利用者の出席が常にあり、会議を通じて施設の現状発信とともに地域からの情報収集しサービスの向上につなげている。出欠については、あらかじめ出席予定者の参加可能日を複数選びFAXしてもらいマッチングをして日程を決めているとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議や祭り、ボランティアなどを通して施設内を見ていただいたり、畑の協力を得ることができている。	行政との連携は常に密に行っている。また施設の行事等にも出席を得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重度化してきており、センサーや拘束の検討の必要な方も実際は出てきている。最小限にし家族や本人の理解を得ながら苦痛の無い取り組みを心がけている。	転倒事故後に床置きがたのセンサー導入した。センサーマットとは違い利用者がベッドから離れると音が鳴る仕組み。3台導入しているが1台ずつお知らせ音を変えることが出来介護者は利用者の判別ができる。導入後転倒リスクは減った。利用者は話しかけると介護者が来てくれるのでコールのようにしている利用者もいた。	直接的な身体拘束はされていない。利用者やご家族の理解を得て床置き方のセンサーを活用し、利用者の負担にならないように心がけている。今後も重度化が進むことが避けられないのが現状だが、利用者の負担にならない工夫に心がけ努力することを望む。
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し、みんなで周知し小さなことでも話し合い検討し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名活用しており、支援できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、面会時でもちょっとしたことでも何か疑問や不安に思う点を話してもらえよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進や月に1度の手紙を通じてであるが、家族代表も1年に1度交代しながら、皆さんのご家族に施設内の情報を伝えたり要望をいただいたりできている。	意見箱の設置は確認した。ご家族には面会時に直接伺うことが多い。来所時、または手紙、電話で伺っている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りは密に行っており、月に1度の職員会議の際に業務にまつわる要望等を代表者に伝え反映させてもらっている。	職員の意見、提案を会議やミーティング、日常の意見を常に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度個人面談を設けるなどして、代表者と話し合うことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は日勤扱いとなり、時間をいただき、出向くことができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に研修を通じながらであるが、できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の聞き出しではもちろんであるが、言葉にできない人もいたのでその後は本人の生活の状態を見ながら何が必要かを見極め、サービスに取り入れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず、両者の話を聞き、今まで大変だったこと、これから望むことを聞き入れている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに食事をし、調理をし作業を行っている。制服や名札などでの壁を作らずできるだけ自然な状態で接することができるようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の方もいるが、近くのご家族にはできるだけ支払いなどを利用して、面会に来る機会を設け、できるだけ必要なものを知ってもらい、持ってきていただいたりし、協力していただいている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達、知人の面会は随時自由に来ていただいております、電話等も自由にしてもらっている。	友人、知人の面会は随時対応している。また電話も自由に掛けてもらっている。入居前のかかりつけ医に通院できるだけ本人の馴染みの方との交流を支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できること、できないことをお互いがカバーしながら、共同スペースでくつろぎながら過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方のご家族が遊びに来てくださったり、ほか施設に入った方に会いに行ったり、ご家族様が来てくれたり、以前勤めていた職員が来てくれたりと良好な関係が築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言葉に出せない人も多いため、ともに生活していくうえで、困難としていること、必要としていることを見出して盛り込むようにしている。	日常の動作の観察を密にして本人の思いをできる限り把握し、本人本位の支援ができるように検討し支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 <b>生きがい</b> 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の暮らしを参考にしながら、アセスメントをとり、現状と合わせながら把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日9名分の申し送りをし、日々の体調、状態把握に努めておりどのようにすごすか把握していくことにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに評価を設け、ご家族やご本人に満足度を聞きながら次のプランに向け反映している。	本人の様子を毎月手紙にてご家族に出している。モニタリングは3か月ごとに行い、評価をつけて手紙でご家族の意見を収集し本人の満足度、職員の意見を反映し介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書と連動させながら記録し、さらに必要と思われるものを次の計画に取り込むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農協や郵便局、公民館、小学校、保育園など近くにあり恵まれた環境と言える。ゴミ拾いや廃油捨て、買い物や散歩を通しながら資源を活用し地域と共存している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医だけでなく、昔からのかかりつけ医に通いながら治療を行っている方も数名いる。	かかりつけ医、かかりつけ薬局との連携は密に行われている。また入居前のかかりつけ医とも連携している。口腔ケアについて歯科医との協力があまりされていない。	口腔ケアについての歯科医、歯科衛生士との協力が薄いようだ。肺炎防止や誤嚥防止の観点から歯科医師、歯科衛生士との協力を密にしていかなることを望む。
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度、利用者様の情報、状態を共有し、助言を受けている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実際に入院者がいたが、家族や本人が不安にならないよう、いつでも戻ってこれるような支援や見舞などを行っており、医師との話し合いの場を設け今後についての検討を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にはもちろんであるが、状態が変わった場合再度説明しながら、必要に応じては医師との話し合いの場を設け、相互が納得いくような話し合いができたうえで、書面上にするしている。	看取りについてはご家族、医師と十分な話し合いをしてそのうえで書面を取り交わしている。年1回のペースで看取りの内部研修を訪問看護師、かかりつけ医の協力で行っている。状態変化し医療的処置等が必要な時は系列のショートステイの看護師の協力で行っている。終末期にご家族が付き添うことも可能である。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の場を設け、対応できるよう努めているが、実践訓練と言われると実際のところはほとんど行っていない。		
33	(13)	○災害対策			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しての避難訓練は行っているが、地震や水害はあまり行えていないのが実際である。水害に関しては他人事なところもあるが、最近の天候はわからないのでこれから行いたい。	災害用に非常時の発電機、ガスコンロや食品備蓄を準備している。利用者、消防、地域住民の協力を得て避難訓練を実施している。	各部屋の入口に避難終了後、ランプが点灯するようにしたらどうか。避難したかどうかの確認が他の職員にもわかる。廊下に常夜灯が見当たらないので、夜間の常夜灯にもなるのではないか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時は特に羞恥心にさらされないように、自尊心を傷つけないような声掛け、対応に努めている。	職員の方たちが利用者と接する態度言葉かけの状態などから一人一人の尊厳やプライバシーに配慮した対応をしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状態に合わせて意思決定できるよう心がけている。困難な場合は2者択一にしたり、簡単な選択肢を設けて聞いてもらうこともある。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重するようにしており、無理強いはできるだけしないようにしているが、作業や手伝い、レクリエーションでも状態に見合ったことができるように努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフから心がけるようにしており、ジャージ、制服はNGIにしている。スタッフの衣類を見て季節感がわかるように心がけている。もちろん皆さんも特に外出時は気合を入れてもらっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日買い物に行くため、必ず行く前に食べたいものを伺いながら行くことができている。季節の味が楽しめるよう支援している。	季節の野菜など地域からの支援がみられた。利用者一人一人の状態に合わせて食事の準備や後片付けを自ら進んで行っている。その日の状態により食事介助が必要な利用者には、声掛けをし、呑み込み確認しながら食事介助をしていた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記入すること、または排泄状況を踏まえて支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後おこなえており見守り、かいじょにて全員が実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、ここの大体の排泄時間を把握しており、失敗の少ないような誘導を心がけている。	排泄の自立に向けた支援を排泄チェック表を用いて声掛けや誘導されており、排泄用品も工夫や見直しされ綿パンツに変わったりしていた。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	根菜類、海藻類を摂取するよう心掛けている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は希望に合わせて2日、3日に1回は入れる支援をしており、入浴ない日は足浴をしたという方の要望も取り入れている。	入浴は利用者一人一人の状況や希望に合わせてると共に、体調などの健康状態などに留意して行っている。足浴の要望も取り入れている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の把握をし、安眠ができるよう心がけている。できるだけ内服薬に頼らない支援もしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	随時内服薬の検討をしており、本人の状態に合わせて、医師と相談しながらできるだけ最小限の服用にできるよう支援している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵が好きな人、調理が好きな人、片付けが好きな人、個々の能力、要望に合わせて対応。外出が好きな人はできるだけ一緒に出掛けるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方々にも協力を依頼し、外食の時間をもうけてもらったり、月に1回はみんなで出かけられるような支援をしている。	利用者のご家族の協力で外食したりしている。そのほかには月1回の外出を支援している外出前に職員が現地を下見確認してから行っている。利用者の買い物支援(自分のほしい物を買、自分でお金を支払う)をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できている人もいるが、たいはんが職員管理である。しかし買い物や外食時は自由に使用できている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際はそのようにしており、電話、面会も自由に行ってもらっている。面会の際は居心地の良い空間作りに努めている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に毎朝掃除し、気持ちよく過ごせるよう努めている。あかりを気にかける人には布を貼る等の工夫をし、個々に湿度、温度計を置き環境に配慮している。	共用の空間は音、臭い、光、温度、光や色に配慮されている窓の外は田んぼが広がり利用者が稲の成長を楽しみにしているとのこと。居心地よい空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度の決まった流れはあるものの、ホールにいたい人、居室にいたい人本人に任せている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居時に双方で話し合い空間作りを行ってもらっている。	居室は利用者、ご家族と相談して使い慣れた家具や寝具、入居前の生活が保てるように配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室間違いがある方には目印を、トイレや浴室には看板を付けてできるだけ混乱ないように工夫している。		